

中国女子短大 平田 定子

I 研究の目的

最近欧米諸国への旅行者や留学生が増加しているので国際的な服装美の追求をしたく、この項では現代の日本婦人の洋装について述べようと思う。

筆者が1958年9月～1959年12月までの間、フランスのパーリーにおいて、婦人服装の構成に関して不完全ではあるが、実態を観察したので、その資料に基いて、日本における婦人服の形成についてまとめた。

II 方法

本学学生50名を使ってそれぞれの好みによるデザインの訪問服を調製させ着用状態とその効果を検討し、フランスにおける婦人服と比較した。

III 成果

婦人の服装は着用する国の習慣にもよるが、概ね目的と場所に合わなければならない。殊に最近洋風と和風の長所を取りまぜた建築が多くなってきているので、服装にもその傾向がたくみに取り入れられつつある。屋内における服装は欧風建築の場合大胆でシンプルなデザインが生々とし、和風建築の場合はおとなしい消極的なデザインが好ましい。しかしこれ等のいずれの場合にも正式の集いか否かによって服装のくだけ方にも当然差が生じてくる。従ってこれ等の服装美について分析し、着用目的や場所等の条件から、構成に必要な整えられるべき要素のあることがみられた。